

2012年度秋学期
学生による授業評価アンケート結果の評価

神学部

授業外学習時間に関しては、来年度から導入する学生の学修ポートフォリオを参考にしながら、より充実できる方策をご検討ください。

コア・教養

全体的に学生の評価が高く、クラス運営の良好さが感じられた。コア・カリキュラム科目におけるティーム・ティーチングの教員間の整合性に関するネガティブなコメントが昨年よりも少なく、改善の跡が伺われた。クラス内でディスカッションを取り入れている事へのポジティブなコメントも多く見られ、学生の主体的な学びの機会を、学生自身が期待していると思われた。クラス外学習の時間は、全体的に少なく、その点が今後の課題であろう。

神学科

学生たちが秋学期の授業を全体的に高く評価していることに、学生たちが満足している様子が反映していると思われる。しかし、いくつかの授業で教具（ホワイトボード、プロジェクター等）の有効活用と授業全体に関する理解度、進み具合などについて不満の声がある。極端なアンケート結果が二三の科目で見受けられることが気になる。必ずしも学生たちが該当授業の趣旨、意図、目的を的確に把握していない場合もあると思われるので、シラバスの熟読度または理解度を問う設問も加えることを検討して頂きたい。

国際キリスト教学専攻

全体的に評価が高く、学生の満足度の高さが分かった。あるクラスで他宗教者をゲストとして呼んだことについて、1人の学生から否定的意見が出ているが、本専攻のカリキュラムの核である異文化理解という観点をより一層、強調する必要を感じている。

キリスト教福祉学専攻

- ① 対的に演習の授業は概ね評価が高かった。また、非常勤講師の授業も評価が高かった。
- ② 以前から「教科書通りの授業」、「質問に答えてくれない」と指摘のあった授業は改善されていない。それぞれの授業の行い方は様々で多様であるが、問題は質問に回答を与えないことである。このことは学生にとっても不満が残るので対処方法を検討したい。
- ③ ほとんど使わないテキストについては、配布資料などで補うなど検討の余地がある。

神学研究科

科目により学生の評価の傾向に特徴がある。これは授業評価が意味あるものであることを示している。ただ、科目により難易度に違いがあるので一概に教員の責任とは言えないが、さらなる改善の余地はあるように思われる。授業外の学習時間は少ないように思われる。課題を増やすこともあり得るが、修士課程であるので学生の自主的な取り組みが期待される。

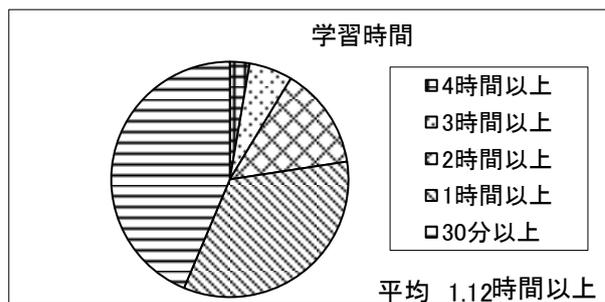
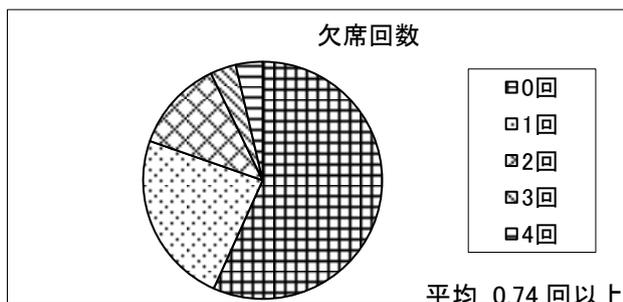
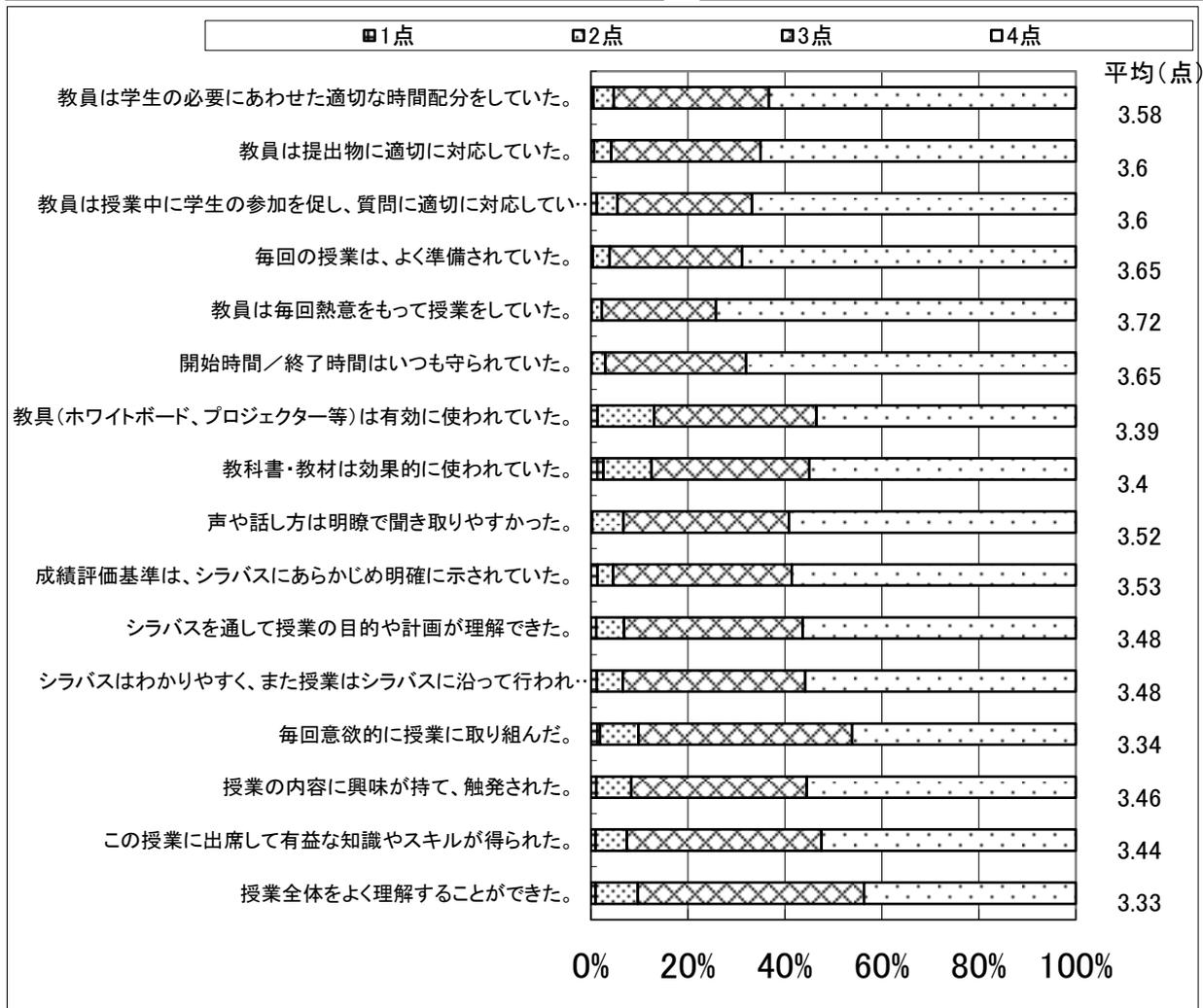
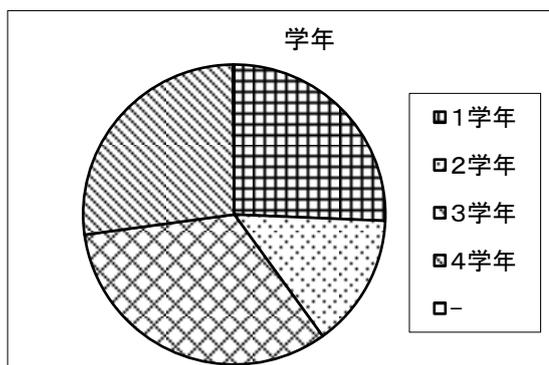
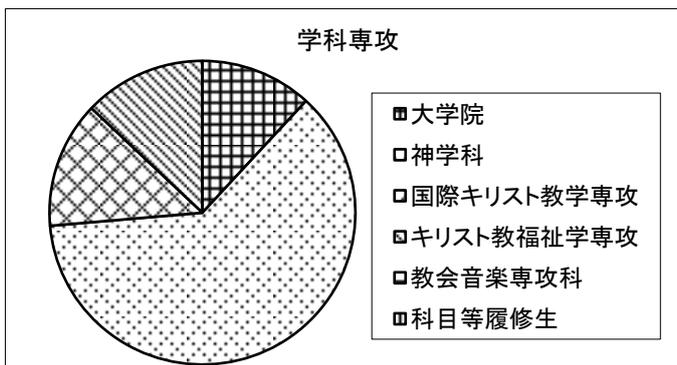
教会音楽専攻科

(今回該当科目なし)

2013年1月15日
教授会 資料

2012年度授業評価アンケート結果

学期 秋学期
科目名 全体



2012 Class evaluation result

Term 秋学期
Course Title 全体

